

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成 21 年度 第 3 回高松市地球温暖化対策実行計画推進協議会
開 催 日 時	平成 22 年 2 月 25 日（木） 10 時 00 分 ～ 12 時 00 分
開 催 場 所	高松市役所 13 階 大会議室
議 題	(1) 実行計画（案）に係る基本施策等について (2) その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上 記 理 由	
出席委員	16 人 嘉門会長，熊副会長，井上委員，片山委員，勝浦委員，河崎委員，川原委員，鬼無委員，白井委員，多田委員，長坂委員，野田委員，古川委員，松本委員，山田委員，横山委員（代理：前谷）
欠席委員	2 人
傍 聴 者	1 人 （傍聴席：10 席）
担 当 課 お よ び 連 絡 先	環境総務課地球温暖化対策室 （TEL 0 8 7 - 8 3 9 - 2 3 9 4）

審議経過および審議結果
協議会を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。 次のとおり、協議会を開催した。 (1) 実行計画（案）に係る基本施策等について （事務局より説明） 以後審議 (委 員) 温暖化については、人類のみならず、この地球上に生きるものすべての生存の危機であり、ピンチである。日本にとっては科学技術をチャンスにして太陽光や水力やバッテリーなどの技術に磨きをかけることによって、未来への道が開かれるのではないと思う。低炭素社会はみんなでひとつひとつ、前向きに考えていかなければいけないと思う。 (会 長) 例えば資料 2 で、色々な意見が出ているが、水道・電力・ガスの販売業者は請求書に CO2 排出量を記載するようお願いしたらいい。市からアクションしたら、業者さんは協力してくれると思う。 (事務局) 水道でも電力でも、コンピュータで打ち出しているの、コンピュータや記載欄の関係など、話をさせていただきたい。特に水道局は市であるので、協力いただけるかどうか今後検討したい。

審議経過および審議結果

(会 長)

これをやればこれだけお金が削減できる、しかもＣＯ２の削減に繋がるといった見える化は非常に重要だと思う。システムを変えなくはいけないので難しいとは思いますが、前向きに検討してもらいたい。

(委 員)

県も見える化について、来年度以降、力を入れていこうと思っているのが、何をすればどれだけ得かということである。電力の請求書ならば、今月何 kW、昨年の同月何 kW 使ったのか、またＣＯ２排出量の計算式も記載されている。それで計算して何になるのか、市民の方にとって分かりにくい。それを金銭面で分かりやすくするなど、ＣＯ２だけではなく、色々な面でインセンティブを与えるような形でもっていきたいと思う。今のところ、情報提供しか出来ない状況ではあるが、そういった形で家庭での取組を進めていきたい。水道やガス、電力での排出量を出し、そこから減らそうというところに結び付けていくような施策を県や市がやっていきたいと思う。

(会 長)

各家庭で見えてくると減らそうという意識になる。スーパーにマイバックを持って行ったら、他誰もマイバックを持っていない場合が多い。レジではレジ袋を使わずに、高松市指定の袋しかいけないということをすればレジ袋は減らせる。店のサービスとしていろいろやっているが、レジ袋を出すということはゴミを出すことになるので、条例で店に余分にお金を掛けたら、店は絶対出さなくなる。

(委 員)

温暖化対策について消費者の意識が高まっていることは事実なのだが、レジ袋どうこう云々ではなくて、そのことによってどういう効果があるかということと、もう一つは意識の低い人に経済的なメリット等をきちっと情報を提供する。行政と企業と市民がそれぞれの立場で運動をしており、企業によって温度差はあるが、三者が情報交換をしていく必要があると思うし、時代の変化と共に環境問題はどんどん進んでいる。意識は高まるけれど、そこにきちっと提供していくシステムや構造的なものが必要だと思う。

(事務局)

温暖化対策は行政が音頭をとっても、皆さんに取り組んでいただかなければ進んでいくものではない。そういったことから、計画ができた後、計画の着実な推進という観点から、新年度においては市民や事業者を交えて具体的に、市民の方はどうやれば取り組みやすいのか等、具体的な活動に結びつけるような方策を検討するために、市民・事業者・行政を含めた組織を作っていきたいと現在考えている。具体的にはまだだが、参加いただいた皆さんの御意見を踏まえて、どういことをすれば皆さんに実践していただけるのかについて考えていきたいと思っている。

(委 員)

資料２の５番の「温暖化対策員」等の名称を検討していただきたい。衛生組合など自治会の中の組織を一度見直したらいいのではないかなと思う。それと事業系の排出量が本市の場合多くなっているということだが、商店街も多いのではないかな。車で色々な物を運ぶのを規制して、自転車等に移るような動機付けも大事なかなと思う。

(会 長)

審議経過および審議結果

自治会については、そういった発想も含めて取り組むことは非常に重要である。宅配便などは商店街の中は自転車で運んでいると思うが、一般の商店もそういうものを使ってやったらどうかということで、エコアクション 21 などにも取り組んでもらうなど、事業活動でがんばってもらえたらと思う。

(委 員)

事業所の要望の中に啓発とか教育とかそういうものがほしいというのがあったので、エコ検定やエコアクション 21 の小さい事業所への取り入れは大事なことだと思う。

(会 長)

エコアクション 21 は結構難しいので、簡単に出来る、中小企業や個人店主さんでもできる簡単な環境報告書のような指針書、ガイドブックとかそういったものを配って、CO₂削減量がいくらで、原単位がいくらでトータル今年はいくら減らす、トータルコストがいくら削減できるとか、廃棄物の量とか、そんな報告書に企業の方に取り組んでもらったら、結果としてまとめられるし、そういうのは非常に重要だと思う。

日本の温室効果ガス排出量の推移では、2008 年速報は景気が悪いせいか、前年より少し減っているが、1990 年比にして 1.9%増である。2012 年に京都議定書では日本は 6%減らさないといけないとなっているが、大量なガスはそう簡単には減らない。各家庭や事業所でやれることを一生懸命やっても、25%削減は厳しいものがある。

(委 員)

循環型社会の構築のところで家庭系ごみの分別・資源化という項目があるが、高松市は缶・びんを分けて収集していたと思うが、今後分けて収集するつもりはあるのだろうか。例えば、今は一緒になっていて市民としてはすごく便利だが、大きなびんの中に缶が入っていると、破碎ゴミになってしまうという現状もあるようだ。微々たることかもしれないが少しでも破碎ゴミを減らすという意味と、リサイクルを進めるということで、分けるようにした方が、市民のリサイクル意識がもう一つ高くなるような気がする。

(事務局)

缶・びん・ペットボトルについては三種混合で集めているが、ごみの減量資源化からいうと大切なことであるので課題だとは思っているが、缶・びん・ペットボトル一緒だと収集車一台でいけるところが三台になったり、そうなるとガソリンをたくさん使うことになる。今も結果的に分けてはいるが、根本的には出す側の皆様に御迷惑を掛けるといことになる。資源ごみの収集自体はどこまでが効率が良くてどこまでが必要なのかというところのせめぎ合いだと思っている。我々が今やっていることがベストだとは思っていないが、課題だとは思っている。

(委 員)

資源の回収だが、スーパーマーケット関連ではトレーの回収をやっている。回収されたらどうなっているかという備品類だとか、今後さらに進んでいって、再生トレーという方向に向かっている。今のような状況で家庭ごみの中で資源化という部分で分別だけすれば、当然二酸化炭素を発生するような燃料の一部として出ていっていると思われる。市民のアンケートでもあったと思うが、行政・事業者・地域の方がうまくいくような仕組みを作れば、もっと簡単に分別・資源化ではなくて、細かな取組が出てこようかと思う。

審議経過および審議結果

また、具体的な取組というのは二酸化炭素の排出量が数値として表せる項目と表せないものがあると思う。だから、もっと細かく検討しないと数値として表せるものは非常に限られてくるという気がする。

(委 員)

事業系のごみは、大きな事業所では分別ができてるように思うが、小さな企業の方たちはごみの減量・分別があまりできていないのではないかな。それで家庭でできる家計簿と同じような、企業が出来るそんなに多くない項目で温暖化に対する家計簿があってもいいのではないかと感じた。

それとLEDについて知ってもらうことも大事だが、LEDでなくても、電球型蛍光灯を家庭に普及させていくには、配るようなことができないか検討してもらえたらいい。特に老人家庭では年に一回電球を取り替えるのは大変な作業なので、電球型蛍光灯は5年、10年付けたままで大丈夫なので、老人家庭にとっては危険防止という点でもメリットと思う。

(事務局)

トレの有効活用だが、家庭系については容器包装という分類で家庭で分けていただいて回収している。容器包装については国全体のごみでは6割位になる。ごみの減量・資源化を図っていくという点で必要ということで、高松市も分別回収している。南部クリーンセンターでそれを一定処理をした上で、全国的なリサイクルの仕組みがあるので、容器包装リサイクル協会の方に渡して、基本的には有効活用をして資源化を図っている。

(会 長)

3Rの最初の2R、リデュース、リユースが重要で、どうしようもないときに3番目のリサイクルをするというような気持ちで取り組まないといけない。そうは言いながら回収率が上がってもCO2排出量はあまり減らない。

(委 員)

唯一学校現場の代表だが、この会に来て、初めて地球温暖化の数値的な課題を認識した。学校は環境学習・環境教育ということをやっているが、小学校は4年生になったときに、ゴミの学習をしたり水の学習をしたりと始まる。5、6年生は総合学習で地球温暖化対策をなささいというのではなく、地域の課題に目を向けなささいと指導要領ではなっている。ほとんどの学校は自分の住んでいる地域の課題ということである。県の環境キャラバン車というのを派遣してもらったりするが、それも台数に限りがあって、毎年必ずそれで勉強ができるとは限らない状況である。そういう中である学校はケナフという植物を育ててそれで紙を作って卒業証書を作るという環境学習というようなものを行っている。また、ある学校は川を掃除したり、クリーン作戦をしたり、校内にビオトープを作って自然の恵みの中で環境はこうなんだよというような、今の学校現場はこういった状況である。未来を担うのは子どもたちなので、子供向けのパンフレット等そういうものが欲しいと思っている。

(委 員)

私は小学校5年生の環境学習を年間で43時間やっている。やっちはいるが、やはり気付いてくれない。どのように考えてそれを行動に持っていくか、というところまで導いてあげないと環境教育と呼べないので、後からじわっと来るような気付きだとか、次に

審議経過および審議結果

つながる言葉かけだとかが、環境教育では大切になるし、先生のやり方次第である。

また、循環型社会の構築で根本的なものは、リサイクルプラントが近くにないものをいくらリサイクルで集めても、結果運ぶだけで輸送費が掛かるので、リサイクルプラントを近くに呼ばないとなかなかうまくいかないと思う。例えば、ペットボトルにしても、容器包装とペットボトルとキャップとみんな違う。トレーにしても発泡スチロールと透明なものがあり、材質がいろいろ違うので一緒にはできない。そういったところまで考えないとリサイクルはとても難しい。だから根本的に、リサイクルプラントを近くに誘致して、リサイクルするのがいい。

(会 長)

要するに廃棄物、捨てられるものを減らすということが非常に重要であるということだろう。最近ではカーボンフットプリント商品もでてきている。

(委 員)

香川県はうどん店がたくさんあって割り箸をたくさん使うということがあり、どうにかしたいということで、割り箸リサイクルをしている。割り箸はだめじゃないかということで洗い箸やマイ箸等、色々な意味でセンセーショナルを起こしていると思う。県産の割り箸を作ることができた。それをさらに広げて、割り箸から森林作り、森作りということで高松市と協定を結んで塩江地区で竹を伐採して植林させてもらう活動の一つ掲げている。森林保全というところでこういう活動も応援していただいており、企業だけが森の保全に関わっていくのではなく、NPO団体、消費者団体、婦人団体などにも活動に取り組んでいけるように広げていけたらいいと思う。

(会 長)

割り箸について、全く逆の意見である。私の主張だが、日本の森林の約4割が人工林である。今、木は値段が下がっており、商売にならない。儲けるために植林をするが、儲からないので管理しない。日が差さない。今必要なのは植林ではなく間伐である。間伐をして日を当てて、それで太陽光が地面に当たり、下草を生やして雨の浸食を無くすようにしないと、今の状態でどんどん不健康林が増えると、大雨の時に浸水して山が危険な状態になるため、簡単に間伐はできず、難しい。

(委 員)

讃岐はうどんを食べるので、結果的に割り箸について考える運動の一つである。香川県はヒノキの産地で、あくまでも余った木を再利用するため、地産地消で、香川県産ヒノキの間伐材を使った割り箸を使い、またそれを再利用しましょうという意味啓発的なものとして解釈していただきたい。

(会 長)

産業として成り立つようなバランスというのは実はなかなか難しい。私も割り箸がだめだと言っているつもりではなくて、間伐が出来る産業システムを守るということも考えて両方ができるような方法でいかないと、環境対策は非常に難しい。

(委 員)

入り口からということでマイ箸のことを言ったが、グリーンコンシューマー高松は森林保全のため、香川は人工林が多いことに着目して、地域の地場産業を起こすということで、10年ぶりに割り箸を作ったのであり、マイ箸の応援ではない。

審議経過および審議結果

(委 員)

高松市の二酸化炭素排出量の構成でいうと廃棄物部門は2%となっている。割り箸もそうであるし、レジ袋もそうであるが、もったいないという気持ちを大切にしましょうというシンボリックなものとしてあるのだと思う。循環型が計画の中に一つ項目として入っているが、実際何をすればどれだけ減るかと考えたときに、大きいところに取り組んでいく必要があるのかなと考えている。経済も成り立っていないといけないし、みなさんの暮らしも車を廃車にすればいいということにはならない。そういう中で、どんな形で削減していくかということが非常に難しいところだろうと思う。街中は自転車で物を運べばいいのではないかと考えたが、全部をそうすることが現実的ではないケースもあると思う。先日市内に車の乗り入れを禁止しているところに視察に行ってきたが、搬入のために時間を決めて車を入れてもいいということになっている。そういった現実的なところ、経済と環境の両方が成り立っていくところを、今後考えていく中で十分検討していただけたらと思う。

(会 長)

再生可能エネルギーの利用促進等も積極的にやっていかないといけない。

(委 員)

基本施策等の枠組みについては今の時点ではこういう形でいいと思う。中身については国のロードマップが示されていないので示されてから具体的な中身の検討でいいのではないかと。事業所のエコアクション21の現状だが、現在商工会議所として地域事務局になっていこうとしている。出来れば新年度からという事で考えていたが、エコアクション21のガイドラインが昨年改定され、内部検討をしているので、早くても7月以降の受付になる。そうなれば地域事務局として活動していくという具体的な取組をしていこうと思っている。既に取り入れている2社の例では、導入については企業のトップの判断が一番大きい。要するにトップの鶴の一声で導入したということである。実際の企業活動の中でどういうメリットがあるかが大切なのではないか。CO2削減は確かに大切だが、それだけでは協力してくれないのではないかと感じた。

(会 長)

どう誘導していくか、どう継続していくかということが重要である。ライフスタイルの定着でも、LEDの電球が電気屋の入り口に並んでいる。そういう時代になっているので、少し高くても市民に買っていただける。ここで書かれている環境教育・環境学習の推進、市民の意識啓発は非常に大事だし、これをどう継続していくかがそこがなかなか難しいと思う。運輸部門でCO2が結構多いが、交通体系の再構築、これはぜひやっていただきたい。自転車で物を運ぶという話もあったが、鉄道・バスの公共交通機関も非常に有効ではある。車は非常に有効な交通手段ではあるが、交通マナーの悪化もガソリンの無駄使いにつながっているのではないかと。そういうことも含めて啓発の必要があるのではないかと。今日議論いただいたことも含めて、主要施策は基本的にこれでいいというようなことだと思う。

(委 員)

公共交通の利用促進のところではパークアンドライド等いろいろあるようだが、家族4人がいるところでは、自家用車からバスや電車で誘導するための経済的な理由付けのよ

審議経過および審議結果

うなものがほしい。定期券のようなもので格安のやり方をしている都市を参考にしていたいただいい。電車代もバス代も高いので、自家用車のガソリン代を考えたら、やっぱり車で行こうかというようになってしまう。思い切った施策をとってもらわないと、作っただけ利用する人はいないはということになってしまう。

(事務局)

交通体系の在り方という話になってくると思うが、体系と言うのは一足飛びに実現するものではなく、本市では新たな総合都市交通計画を作ろうとしており、そういった中で、大きな目的としては過度な自動車依存をやめましょう、自動車から公共交通機関へ、更には自動車の流入抑制といった点を見直していこうとしている。その中で電車の料金というのは事業者の事業活動の一環であり、事業者としてどうするかという部分であるので、いずれにしても新たな公共交通を利用して誰もが移動しやすい環境作りを目指していきたいということである。そのようになれば必然的にCO₂も減っていくと思う。総合都市交通計画を推進していく中で、そういう姿を目指していきたいと考えている。

(会 長)

公共交通だけという訳にはいかないし、民間企業としての鉄道も成り立たなくてははいけない。

(委 員)

自動車のマナーが悪いと会長が言われたが、自転車のマナーも相当悪いことにも頭を痛めていると思う。中心市街地、商店街には、最近少し増えてきた無料の駐輪場があるが、その場所が分かりにくい面がある。商店街の並びの空き店舗を利用して無料の駐輪場にしているということだが、そのように目立つところにたくさん作ることによって、中で走り回らなくても自転車を置いて歩いていける方法が取れると思う。自転車のマナーも良くなるし、歩いている人間の安全性も上がってくると思うので、ぜひそのようにしてもらいたいと思う。

(委 員)

団体の立場でいろんな審議会に出ているが、公共交通、温暖化、防災、全部関連している。ここで意見がでているが、それらを行政の立場としていかに整合性をもってまちづくりをしていくか、それが計画だと思う。それぞれが共有できるような施策があったらいいと思う。

(委 員)

レンタサイクルポートの場所だが、普段車を使っていて自転車を使う機会があまりない者にとっては、レンタサイクルがどこにあって、そんなシステムがあるのかということも知らない市民も多いと思う。少なくともいいので、いろんなところにポートを作ってもらいたいということと、マスコットキャラクターや自転車のマークのような分かりやすいものがあれば、今日は自転車にしようと思えるタイミングが増えるのではないのかと思う。

(会 長)

今日の議論を考えてみると市が具体的にどうしていくのかというところを分かりやすく書くというのが非常に重要と思う。

審議経過および審議結果
(2) その他 (事務局より今後のスケジュールの説明) (会 長) 本日の会議はこれをもって終了する。 以 上